

船舶事故調査報告書

令和3年10月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年10月23日 11時45分ごろ
発生場所	和歌山県和歌山市田倉 <sup>たくら</sup> 埼北東方沖 田倉埼灯台から真方位017° 910m付近 (概位 北緯34° 16.4′ 東経135° 03.9′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>はくほう</sup> 白宝丸は、航行中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年11月5日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 白宝丸、5トン未満（長さ11.30m）
船舶番号、船舶所有者等	252-11463和歌山、株式会社ジャパン未来サポート
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底部に破口を伴う擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1.0m、 潮汐 ほぼ高潮時
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人3人を乗せ、釣りをを行い、天候が悪化してきたので、帰航の途についた。</p> <p>本船は、GPSプロッターを作動させ、加太<sup>かた</sup>瀬戸を通過して、風浪を右舷後方から受け大きく動揺しながら、約10ノットの対地速力で目視により南進中、干出浜に乗り揚げた。</p> <p>船長は、携帯電話により118番へ通報を行った。</p> <p>本船の喫水は、船首及び船尾共に約1.0mであった。</p> <p>船長は、風浪により左方に圧流される中、風浪の状況に意識を向け、また、GPSプロッターの取扱いに慣れていなかったため、目視により航行し、左舷船首方の干出浜に向かう態勢となっていることに気付かなかつたと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、風浪により左方に圧流される状況下、南進中、船長が目視に頼って航行したことから、左方に圧流され干出浜に向かう態勢となっていることに気付かず航行を続け、干出浜に乗り揚げたものと推定される。
原因	本事故は、本船が、風浪により左方に圧流される状況下、南進中、船長が目視に頼って航行したため、左方に圧流され干出浜に向かう態勢となっていることに気付かず航行を続け、干出浜に乗り揚げたものと推定される。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・風浪がある中を航行する際、圧流されている可能性を考慮し、装備しているGPSプロッターの取扱いに慣れて船位の確認を確実にすること。</li></ul> |
|--|---|